

# 福祉 ぐんま

NO.239  
2012 冬号

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



## ■主な内容

- \*ぐんまボランティアフェスティバル東部ブロック開催!!...2
- \*年頭のごあいさつ...3 \*ハートtoハート ミュージックフェスティバル...3
- \*ぐんま学生ボランティアネットワークの活動...4
- \*ふれあい・いきいきサロン研修会...5
- \*ボランティア情報...6~7
- \*素敵な笑顔...8 \*福祉・介護職場体験希望者募集...8
- \*福祉まめ知識...8

社会福祉法人清光会 特別養護老人ホーム泉の園  
福島 雅人さん  
(関連記事は3ページに掲載)



「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。



# ぐんまボランティアフェスティバル

## 東部ブロック開催!!

「ぐんまボランティアフェスティバル東部ブロック」(同ブロック実行委員会、県社会福祉協議会、県ボランティア連絡協議会主催)が9月3日、太田市の「藪塚本町文化ホール」を会場に開催され、群馬大学の鶴飼教授、森谷教授の東日本大震災を踏まえての講演会を始め、5つの分科会などさまざまな催しが行われました。

### 《ブロック開催一巡》

本フェスティバルは、平成18年11月に開催された『第15回国ボランティアフェスティバルぐんま』大会での成果を継承し、平成19年度より、本県の地域ボ

ランティア活動の振興を図るため、県内5つのブロックを持ち回りしながら開催し、本年度ブロック一巡となる第5回目となりました。

当日の運営については、地元ボランティアをはじめ、ボラン



ポスター原画及びサブタイトル  
最優秀賞並びに優秀賞受賞者

ポスター最優秀賞  
太田市 中島朋哉さん

サブタイトル最優秀賞  
邑楽町 高橋のり子さん



ティア活動の新たな担い手となっていく大学生ボランティアなど幅広い分野の人達が積極的に協力し合い、時折、見せる風雨にもかかわらず晴天時と同じ勢いで地域住民の力を結集することが出来たことが、今大会の特徴にもなりました。

### 《県民の新たなつながりを目指して》

大会テーマの「笑顔のかけ橋」は、『第15回国ボランティアフェスティバルぐんま』から継承しており、サブタイトル「つなげよう今、そして未来へ」は、県ボランティアフェスティバル開始時から行っている公募形式で決定したもので、この度の震災

に対する思いもあつてか多くの県民の方から御応募いただき、ポスター・チラシの原画など様々なものが、地域住民発の手作りのものとして行われた大会となりました。

ふれあい広場  
その他、記念講演をはじめ、テーマ別の研究会である分科会や東部ブロック管内の社会福祉協議会やボランティア活動団体を中心として行われた「ふれあい広場」では、活動紹介、模擬店などで賑わいを見せ、さらには大学生ボランティア有志による東北の復興支援を願っての岩手、宮城、福島県の県産品の販売や福島県からの出店による果物販売も行われ、人々のつながりの強さを感じさせる面も見られ



東北の県産品を扱った復興支援ブース

ました。  
また、企業の社会貢献ブースやコープぐんまによる「こども広場」の運営等、ボランティア・市民活動の啓発・普及の大きな機会となりました。

### 《“笑顔のかけ橋”を被災地へ》

東日本大震災や相次ぐ災害の中で、あらゆるライフラインが寸断された中で私たちが唯一つながっていたのは、心ではないでしょうか？  
心と心をつなぐ、笑顔のかけ橋をここ群馬から被災地へ架けていき、1日も早い復興を願っての活動を続けていきたいと思えます。

# 年頭のごあいさつ

社会福祉法人  
群馬県社会福祉協議会

会長 下城 茂雄



皆様方におかれましては、平成24年の新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、災害の多かった年でした。特に3月11日に発生した東日本大震災は、我が国に未曾有の被害をもたらしました。県社協といたしましても、全社協の調整の下、市町村社協と共に、3月19日から9月30日まで、延べ616人の職員を被災地の福島県に派遣いたしました。社協のネットワークと存在価値を存分に示していただいたと、職員の皆様方には、心から感謝を申し上げます。

この災害では、人と人との絆、コミュニケーションの大切さがあらためて強調されました。少子・高齢化がますます進む中で、今、家族や地域社会の在り方が問われており、「地域福祉の推進」を目指す社協に対する期待は大変大きなものがあります。「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭、地域で、その人らしく安心して暮らせる福祉社会」の実現に向けて、気持ちを新たに、皆様と共に頑張ってまいりたいと思っております。県社協は、設立60周年の昨年策定した「活動推進計画」に基づいて活動を展開してまいります。前を向いて、「明るく、楽しく、元気よく」やっていきましょう。

群馬県社会福祉協議会厚生事業部会主催による、第19回ハートtoハートミュージックフェスティバルが、10月14日(金)に前橋市総合福祉会館多目的ホールを会場に開催されました。

参加者は障害者施設を利用している方及び当日のスタッフ等を含め305名でした。

## 第19回 ハートtoハート

# ミュージックフェスティバル

### ● 開催趣旨 ●

『歌や音楽に国境はありません。歌はいつも私たちのそばにいて、共に悲しみ、慰め、怒り、喜び、愛し、支え、励まし、勇気づけてくれます。』

この世にふたりと同じ人間がないように、私たちは障害の有無や出身、信条にこだわることではなく、お互いの違いを認め合い、ともに生きることのできる心を持ちたいと願っています。

そんな私たちの願いを音楽に託し、ひとりでも多くの方々に共感を得て、明るい社会づくりに寄与する。』ことを目的として開催しました。



大阪弁のトークとともに会場は盛り上がりました

### ● 出演者 ●

群馬県身体障害者団体連合会から、滝沢久美子さん、桜井英

嗣さん、そして中村美子さんの三名による音楽発表。

続いて、シャンテの熊野伸一さんと視覚障害者で構成されるロックバンドです。当日は、熊野さんと愛犬にお越しいただきました。

音楽を通じた三つのキーワードである「視覚障害者と音楽」、「手話と音楽」、「手話と視覚障害者」このキーワードにより、大阪弁による楽しいトークを交えながら盛り上げていただきました。

続いて、前橋市を中心に活動をしているrens.(レンズ)さんです。メンバー三人とも本県出身でライブ活動を中心に活躍しています。

最後に、熊野さん&rens.(レンズ)さんのジョイントにより、



シャンテの熊野伸一さんとrensのジョイント

会場の皆さんと一緒に「世界に一つだけの花」を熱唱してフェスティバルを締めくくりました。



シャンテの熊野伸一さん

### ● 実施に向けた取り組み ●

本フェスティバルは、日頃支援業務を行っている職員による実行委員会により協議を重ねて進めてきました。

群馬県立障害者リハビリテーションセンターの富田委員長を中心に、実行委員自ら出演交渉を行うとともに、計四回の委員会を経て準備を進めてきました。

実行委員会では、常に利用者に良い音楽、楽しい音楽等を聞いていただくためにアイデアを出し合い進めてきました。

締めくくりのジョイントによる「世界に一つだけの花」は、熊野さんのリード&rens.(レンズ)さんの息のあったリズムで、会場を盛り上げていただきました。



## 今、私たちにできること

# ずっと続く支援を

ぐんま学生ボランティアネットワーク  
代表 煙山 翔平

学校を超えたつながり



春休み！ドリームスクール（親子交流）

平成23年度群馬県社会福祉大会を去る11月21日に前橋市民文化会館大ホールにおいて行いました。当日は、県内の福祉関係者ら約1,200名が集まり、住みなれた地域でその人らしく安心して暮らせる福祉社会の実現に向け決意を新たにしました。

大会式典で、ぐんま学生ボランティアネットワーク代表の煙山翔平さん（東京福祉大学4年）より東日本大震災にかかる支援の取り組みについて、発表していただきましたので、その概要をご報告いたします。

自分たちができること

震災後、「何か私たちにできることはないか」と皆で話し合い、

ボランティア活動をとおりて学校を超えたつながりを作っていきたくという学校側、社会福祉協議会双方の思いの中、ボランティア活動に取り組む学生たちが中心となり、平成18年4月30日にネットワーク組織を発足しました。

活動は、①春休み！ドリームスクール（親子交流）②夏休み！子ども宿題塾③県ボランティアアフェスティバルへの企画④福祉教育サポーター事業⑤収集ボランティア活動状況調査の実施等を行ってきました。

被災地での活動だけでなく、県内での避難所支援、救護物資の仕分け・積み込み、記念日事業、復興支援活動を行いました。

避難所支援は主に子どもの遊び相手や、また、記念日事業では、本県に避難されている家族を対象に『母の日』に、手作りのポケットティッシュカバーとしおりを、『父の日』に、手作りの巾着袋とうちわを、全員に贈呈しました。

被災地においては、主に福島県相馬郡新地町で側溝の泥出し、家屋での瓦礫の撤去、思い出品の整理等を行いました。

### 震災を忘れず

今回の震災において、避難所支援、現地支援を行うことがで

「父の日」に手作り巾着袋とうちわを贈呈



「母の日」に手作りポケットティッシュカバーとしおりの贈呈



きてよかったと感じております。学生が被災地でボランティアをすることは簡単ではなく、社会福祉協議会や共同募金会の協力をいただき実現できました。避難者の方々に手作りの記念品を贈呈した際に、逆に感謝の言葉を頂き、私達自身も元気づけられました。

震災から8カ月になりましたが、今もなお避難生活をされている方もおります。月日が経つにつれて、記憶は薄れていきますが、私達は震災のことを忘れてはなりません。

### 継続した支援を

被災地での災害救援ボラン



側溝の泥出し（福島県新地町）

ティア活動も、避難所の閉鎖や仮設住宅への入居が進む中で、生活再建やコミュニティの再生に向けた生活支援型の活動に変わってきています。

復興に向けて行われている地域づくりの活動やイベント、様々な生活支援のための活動を支援するために、ネットワーク企画の模擬店を被災地支援ブースの収益金や街頭募金等により支援金を集め、岩手・宮城・福島の東北三県へ送り、今後も継続して支援活動を行っていきたいと思います。



左から二人目 煙山さん

## 平成23年度

# ふれあい・いきいきサロン研修会

～サロンをもっと楽しむために～

11月4日、11月25日、前橋市総合福祉会館で、ふれあい・いきいきサロン研修会が開催されました。

年々、住民がつくる地域交流の場としてのサロンが認知され、県内のサロン数は増加しており、地域における支え合い助け合いの輪が、着実に広がりを見せております。

本研修会は関心が非常に高く、昨年度は定員を大幅に超える参加申込がありました。

そのため、本年度は参加者をブロック別（西部・吾妻・東部ブロックと中部・利根沼田ブロック）に分け、主に担い手としてサロンを企画・運営している全ての参加者が、活動をより充実させ、楽しんでもらえるよう開催いたしました。

研修会では、各ブロックの高齢者サロン、子育てサロンから、1事例ずつ実践発表してもらいました。

参加者自身は、サロンに対し、それぞれ様々な思いや、悩みなどを抱えているかと思われそうですが、こうした実践発表を通じて、少しでも多くの情報を得て、サロンの企画・運営の一助になることが出来ればと思います。

実践発表後、レクリエーションを行い、今井 寿美枝先生からサロンで使えるレクリエーションを、参加者と一緒に実践し、「笑い」の重要性等をお話してもらいました。

今井先生の軽妙なお話と、合唱や体操等で大いに盛り上がり、会場は、終始、熱気と笑いに包まれ、参加者が楽しく興味を持ちながら、研修することができました。

地域社会における人間関係の希薄化が進む中、孤立・孤独をなくし、安心して住み続けることができるよう、地域でお互いにつながりを持てる「居場所」を提供し、住民同士が助け合う形としてのサロン活動を、今後も、本研修会等を通して推進していきたいと思っております。



実践発表者・塚田政雄氏



実践発表者・園田カネ子氏



実践発表者・森田経代氏



実践発表者・栗田利子氏



レク体操をする参加者



今井 寿美枝先生



壇上での一コマ

### ○サロン活動とは…

地域の中で、ひとり暮らしの方や閉じこもりがちの方などが、孤立しないように、住民やボランティア等が気軽に集まり、楽しく過ごせるよう支え合う、仲間づくりの活動です。



# Hello! ボランティアセンター

## 大泉町ボランティアセンター



ボランティアセンターでの相談の様子

大泉町保健福祉総合センター内に設置してあります大泉町ボランティアセンターは、自分たちの住んでいる地域福祉推進に取り組んでいるボランティアの活動拠点であり、皆さんの気軽な窓口となっています。

現在大泉町ボランティアセンターには、団体・個人あわせて約1000件の登録があり、こうした方々が地域を中心とした様々な活動が円滑に行えるよう、ボランティア活動などの情報や資料の提供を行っているほか、手話、点字、朗読など技術講座の開催や、ボランティア活動をしているうえでの不安や悩みなどの相談対応なども行っています。

また、大泉町ボランティアセンターでは全戸配布の広報誌を毎月発行し、より多くの皆さんにボランティアを身近に感じていただけるよう情報発信にも力を入れ、今後も皆さんに気軽に活用していただけるような雰囲気作りを心がけて参ります。

### 大泉町ボランティアセンター

〒370-0523 邑楽郡大泉町吉田2465 TEL 0276-63-2294 FAX 0276-63-5528

# ボランティア情報

## 「ダノンジャパン」と太田市社会福祉協議会 企業と協働で行う被災者支援事業

11月12日(土)前日の雨模様の天候から一転、晴天の下「ダノンジャパン」による被災者支援事業「ダノン館林工場見学会」が行われました。

この事業は東毛地区に避難してきている被災者を招待する形で行われ、太田市内に避難してきている被災者のうち、約50名も参加しました。

太田市社協も、このイベントの企画から携わりチラシの作製や配布、受付、また当日のバスの添乗等々で協力させていただきました。太田市社協とダノンの関係は6月に実施した「第2回被災者を励ます集い」からの関係であり、東京本社より担当者の方には何度か来所いただき、お互いの役割分担などの打ち合わせを繰り返し、当日を迎える形となりました。

社協として持ちうる被災者の最新情報(避難者の年齢層や置かれている状況等)を企業に提供し、それを受けて企業が企画に反映する理想的な形が取れた事業であったように思います。

今後も地元企業との連携を深めて被災者支援事業に限らず、様々な事業展開をしていきたいです。



準備をして工場見学へ向かいます



工場見学後の試食「おいし〜ね」

# 社会福祉協力校

## 長野原町立第一小学校

本校は、群馬県の北西、長野原町にある王城山の麓の児童数二十二名の小規模校です。

### 1. 福祉教育の目標

「思いやりを持ち、互いに助け合う心と実践力を育て、社会連帯を目指す児童の育成」を目指し、地域の協力を得ながら豊かな交流や体験活動を推進しています。

### 2. 取り組み内容の紹介

#### (1) 地域の福祉施設との交流

にしあがつま地域活動支援センター「やまどり」と様々な交流を行っています。七夕集会や運動会にお招きするとともに、訪問して作業体験をさせていただいています。交流を通して、障害をお持ちの方への理解を深めるとともに思いやりの心が育っていきます。



花を育てる活動 JR川原湯温泉駅等へ届けます

#### (2) 花を育てる活動

花の豊かな学校を目指して、児童は季節の花を育てています。育てた花は、町役場や川原湯温泉駅、管内の福祉施設などに届けます。本校の近くには地域の方が保護しているカタクリの群生地があります。本校児童も地域の方と山の斜面で種を拡散する活動を行いました。これらにより、生き物を大切に育てる気持ちが育つことができました。

#### (3) 学芸発表会「久森祭」における地域の方との交流

総合的な学習の時間では地域の高齢者から地域の歴史やくらし、文化や自然、産業などについて学びます。久森祭では学習成果の発表を行います。また、招待した高齢者とゲームを行い、交流しています。児童は自分で書いた招待状やお礼状を直接地域の皆様に届けます。久森祭を通して、地域の方に支えられていることを児童は学びます。

#### (4) 福祉体験学習や親子福祉講演会の充実

様々な福祉体験活動や福祉講演会を行っています。本年度は盲導犬を利用している方においでいただく予定です。福祉について実感を持つて考えることができました。

### 3. 3カ年の成果と課題

地域の方の協力を得て、様々な交流や体験活動を行う中で、児童には思いやりの心や感謝の心が育ってきました。また、ボランティアへの意識も高まってきました。今後、これらの活動をさらに充実させていくことで、互いに助け合う心と実践力を育てていきたいと考えています。

## 群馬大学学生有志による義援金募金団体の活動

3.11の悲劇を目の当たりにし、「何かしたい…何ができるだろう。」と3月14日に「群馬大学学生有志による義援金募金団体」を結成。右も左もわからないまま勢いだけで今日まで突っ走ってきた。高崎駅での募金活動に始まり、古着・古本の回収・換金、それらを用いてチャリティーフリーマーケット（月1～2回）へ参加、大学周辺の店舗へ募金箱の設置を行う等様々な活動を行ってきた。

その他にもボランティアとして群馬県の避難所や福島県・宮城県を訪れた。群馬大学周辺での古紙・古新聞等の回収活動は現在も続いている。また、先日行われた学園祭では、東北産の食材を使用したものを販売した他、私達の集めた古着にご来場された方からメッセージを募り、「メッセージキルト」を完成させ、福島県いわき市の仮設住宅へ届けた。集まった義援金は、日本赤十字社群馬県支部に直接届けている。

微力ではあるが、今後も継続して自分たちにできることを続けられたらと思う。



手作りキルトを仮設住宅へ



社会福祉法人清光会 特別養護老人ホーム泉の園 福島 雅人さん

冬号表紙

素敵な笑顔

高崎市箕郷町にある特別養護老人ホーム泉の園に勤務する福島雅人さん。小・中・高校時代にアイスホッケーに打ち込んだ頑張りとは体力で、福祉をするエンターテイナーを目標に充実した毎日を送っています。



**※このお仕事に就いたきっかけは？**  
工業高校だったので、授業の一環で知的障害者施設のボランティアを体験し、自分には人と関わる仕事に向いていると思いました。福祉の大学に進学し、卒業と同時にこの施設に就職しました。仕事を始めて6年が過ぎ、現在はユニットリーダーとして業務に取り組んでいます。

**※仕事で心がけていることは？**  
利用者さんに楽しく毎日を過ごしてもらいたい、という気持ちで仕事をしています。レクレーションの時間に限らず、日常生活の介助やコミュニケーションの中でも、楽しんでもらえるよう心がけています。笑っている時間は幸せだと思ふので、それが生きがいにつながっているのかなと思います。

**※今後の目標は？**  
やはり、福祉現場のエンターテイナーです。利用者さんに楽しさをたくさん提供したいです。自分

が「来ると明るくなる」「太陽みたいな人だ」と言われると、すごくうれいす。利用者さんから必要な人だと思ってもらえることが、やりがいになっていきます。それから社会福祉士と介護福祉士の国家資格を持っているので、ケアマネの資格を取るのも目標です。仕事をしながら勉強するのは大変ですが、がんばりたいです。

**※アイスホッケーの選手でしたね。**  
伊香保町出身で、小・中・高校とアイスホッケーをやっていました。中学、高校時代とも全国大会に出場し、県では十何年ぶりに初戦を突破しました。オフシーズンときはラグビーやボクシング、柔道、駅伝にも参加していました。体を動かすことが大好きです。他にも絵を描くことが趣味です。

**※これから福祉職を目指す人に一言**  
この仕事はやることで楽しさがあると思ふと思います。自分が楽しいと思ふことで、利用者さんも楽しんでくださるんです。興味をもったことには何でもチャレンジして仕事に活かしてもらいたいと思います。

旅行も好きとのことで出掛ける時によく着用しているという愛用のダウンで撮影に臨んでくれた福島さん。爽やかな笑顔が絶えない好青年で、きっと利用者さんの間でもモテモテなのでしょうね。

福祉・介護職場体験事業

「体験」してみませんか！  
福祉のお仕事

本会では、福祉・介護サーブスに関心をお持ちの方を対象に福祉・介護職場体験事業を実施しています。

現在、体験希望者を募集していますので是非ご活用下さい。

目的

福祉・介護サーブスの仕事に関心を有する者を対象に、福祉・介護の職場を体験できる機会を提供し、職場の雰囲気やサーブス内容などを直接知ることができ、環境をつくり、福祉・介護分野への人材参入を促進することを目的としています。

実施期間

- 平成23年9月下旬
- 平成24年3月末日
- 短期コース 原則として5日間
- 長期コース 原則として10日間

対象者

福祉・介護サーブスに関心を有する方（高校生以上）

募集定員

- 短期コース45人
- 長期コース45人

参加費

無料  
(交通費・昼食代・健康診断(検査)費用は参加者負担)

申込期間

平成24年1月末日まで随時お受けします。

実施施設

県内146事業所

実施内容

「利用者に対する介護・介助」、「利用者の話相手」、「散歩の付き添いなど交流等」の体験等、施設・事業所の事情を考慮し、福祉・介護の仕事を理解していただき魅力ある職場であることを感じていただける内容です。

申込方法等

申込方法等、詳細については、福祉人材課

☎027-255-6600  
お問い合わせ下さい。

福祉まめ知識

**Q** あるシンポジウムに参加したところ、「ファシリテーター」という役割の方がいましたが、これはどんな意味があるのでしょうか。

**A** 一般に、会議等における進行役を指しますが、会議だけでなくシンポジウム、まちづくり会議、プロジェクト等において、議論に対して中立的な立場で参加者の能力・気付きを引き出し、その成果が最大となるように支援するという役割があります。決定権を持たないので、議長とはまた違った存在です。

(Facilitate は「促進する、円滑にする」という意味があります。)

ファシリテーターには、意見を聞く力、意見を引き出す力が重要と言われています。

編集/発行

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

〒371-8525 (専用郵便番号)

群馬県前橋市新前橋町13-12

群馬県社会福祉総合センター内

TEL 027-255-6033(代表)

FAX 027-255-6173

URL http://www.g-shakyo.or.jp/

発行日 平成24年1月1日